



「YOKOHAMAまごころ基金」を通じて社会課題の解決に貢献



取り組みの意義

従業員の社会に役立ちたいという気持ちをかたちにする

「YOKOHAMAまごころ基金」は、東日本大震災後の従業員アンケートによって得られた「世の中の社会的課題解決のために何かを行いたい、社会貢献活動をどう始めればよいか分からない」「時間がなくてボランティアに参加できない」などの声に応えることを目的に設立されました。

また、災害発生時にはいち早く義援金を拠出することができます。

一方的な支援ではなく、支援団体との交流により、従業員が社会からの要請への理解を深めたり、気付いたことを職場に活かしたりすることができると考えています。

まごころ基金からの拠出額（延べ金額）

団体支援
472万円

災害義援金
750万円

横浜ゴムからもマッチングギフトとして同額を拠出

YOKOHAMAまごころ基金設立の経緯

2011年の東日本大震災の際、横浜ゴムではグローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパンの呼びかけに応じて延べ60名の従業員が被災地でのボランティアに参加しました。その後、参加者へのヒアリングやディスカッションから継続したボランティア活動の仕組みが必要になりました。

ボランティア参加者とCSR・環境推進室（当時）を中心に、「社会貢献分科会」を形成し、従業員がボランティアに参加しやすくなる仕組みとして「従業員社会貢献活動支援制度（ボランティア活動支援制度）」を2014年4月に、「YOKOHAMAまごころ基金」（以下、まごころ基金）を2016年5月に設立し、運営を続けています。

基金の仕組み

まごころ基金は、横浜ゴムの従業員（雇用関係にある人が対象範囲）が任意で会員になることができます。1口100円で給与天引きを行い支援団体への支援を行っています。

会員は支援したい団体を事務局に申請し、各事業所の代表者で構成する運営委員会がその団体の支援の実施の可否や、支援金額は適切かについて審議します。災害が発生した際も運営委員会で審議し、義援金の拠出可否を決めます。横浜ゴムがマッチングギフトとして基金の支援額と同額を支援先に寄付することで、より大きな支援が可能です。

支援先団体との連携により従業員の意識も変わる

2019年には支援団体による横浜ゴム社内での勉強会などを開催しました。一方的に支援するのではなく、支援先団体との交流を行うことで横浜ゴム従業員も刺激を受けたり、社会にどのような課題があるのか気づかされたりしています。こういった活動により、横浜ゴムの製品やサービスを通じた社会課題解決のヒントが得られることを期待しています。



2019年に支援を行った団体

■：支援を行った団体の主な活動

✳️：まごころ基金の支援により行った内容

NPO法人 イカオ・アコ

■フィリピンでの環境教育、3R（リユース、リデュース、リサイクル）の啓発、マングローブ林の植林などの環境関連事業

✳️Don Aguido Reyes Maboloc高校の水源はこれまで井戸一基で全てを賄っていたため、高校生たちが快適で衛生的に使用できる水道設備の設置に活用していただきました。



高校に新しく設置されたタンク

認定NPO法人 チャイルド・ファンド・ジャパン

■フィリピンやネパールなどで貧困の中で暮らす子どもの健やかな成長と家族や地域の自立支援

✳️「スポンサーシップ・プログラム」を通して、フィリピンに暮らす4名の子どもたちが教育や保健・栄養など、必要に応じたサポートを受けるために役立てていただきました。従業員との手紙のやりとりを通じた交流も行っています。



従業員からフィリピンの子どもたちに送ったカードなど

一般社団法人 JEAN

■海洋ごみ問題の普及啓発活動や海岸クリーンアップ活動などを通じた海洋ごみ問題解決に向けた活動

✳️近年、プラスチックによる海洋汚染への関心がますます高まっているため、前回の支援で作成したマイクロプラスチックについてのリーフレットを用いた学習会の開催などに活用していただきました。



海ごみ問題の普及啓発のための勉強会

認定NPO法人 シャイン・オン・キッズ

■小児がんなどの病気と闘う子どもに、入院生活や治療に向き合う勇気を与える動物介在療法の推進

✳️子どもたちに寄り添うファシリテッドッグプログラムを安定的に継続するための新たなファシリテッドッグの育成に活用していただきました。



新しいファシリテッドッグとして育成中のタイ（左）とマサ（右）

認定NPO法人 REALE WORLD

■日本とネパールで、主にサッカーを通して子どもたちの生きる力を育み、希望ある未来をみんなで作ります。

✳️教育型サッカー大会「レアーレカップ」に参加した日本の子どもたちから寄付されたサッカーシューズをネパールの子どもたちに届けるために活用していただく予定です。



日本からのサッカーシューズを受け取ったネパールの子どもたち

甚大な災害への義援金抛出

甚大な被害が発生した災害に対して義援金を抛出し、日本赤十字社等を通じて被災した方に届けています。まごころ基金から義援金を抛出することで、災害が発生してから社内で義援金を集めるよりも迅速に対応できること、横浜ゴムがマッチング・ギフトを行うことで、より多くの金額を支援することが可能です。

2019年度に行った災害義援金の抛出

災害名称	義援金抛出額
令和元年8月豪雨災害	50万円
令和元年台風第15号 千葉県災害	50万円
令和元年台風第19号災害	150万円

※横浜ゴムからマッチング・ギフトとして同額を抛出している
(令和元年台風19号災害には、上記のほか企業としての寄付を行っている)

今後の課題

今後、支援団体との交流をより強化し、共に社会課題解決に役立てられるような関係を構築していきます。また、これまでに支援できなかった分野で活躍する団体や新型コロナウイルス時代が必要とされる社会課題解決など、新しい分野への支援も検討していきます。